三 「二重否定」

① **無不〜＝〜ざル（ハ）なシ** ／（〜しないもの**は**ない＝必ず〜する／皆〜する）

② **非不〜＝〜ざルニあらズ** ／（**〜しないのでは**ない＝非常に〜する）

③ **非無〜＝〜なキニあらズ** ／（**〜がないのでは**ない＝〜がたくさんある／いる）

④ **無非〜＝〜ニあらザル（ハ）なシ** ／（**〜では**ないもの**は**ない＝皆〜だ）

（例）

莫不治（マラ）。（　　　　）（　　　　）

非不悪（にくマ）レ寒（かん）ヲ也。（寒を悪ま　　　　）（寒さを嫌がらない　）

非無其ノ謂（いわれ）。（其の謂　　　　）（その理由　　　　）

莫非王土。（王土　　　　）（王の土地　　　　）

⑤ **不可不〜＝〜ざルベカラず** ／（**〜しないわけにはいかない**）

（例）　**不可不察也。**〔察せざるべからざるなり。〕
（察しないわけにはいかないのである。）

問七　「莫二不レ観者一。」を書き下し文にしなさい。

問八　「非二以レ無レ人而不一レ芳。」とはどういう意味か。最も適当なものを次の中から選べ。

ア　見てくれる人がいてはじめて、芳しい花の存在が知られるわけではない。
イ　見てくれる人が現れるかどうかで、花がその香りを変えることはない。
ウ　見てくれる人がいないからといって、芳しい香りを漂わせないわけではない。
エ　人が見てくれることを求めて、芳しい香りを発するわけではない。

問九　「父母之(の)年、<u>不レ可レ不レ知也。</u>」の傍線部を現代語訳せよ。

注　知…記憶する。覚えておく。

第7講　PART3　確認問題

①　「無レ不レ知レ敬二其兄一也。」の書き下し文として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　其の兄を敬するを知らざるにあらざるなり。
イ　其の兄を敬するを知らざる無きなり。
ウ　其の兄を敬するを知ること無きにあらざるなり。
エ　其の兄を敬するを知るものにあらざるは無きなり。

②　「不為也。非不能也。」の解釈として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　できないのだ。それをする能力がないからだ。
イ　しないのだ。できないと思ってはいけない。
ウ　できないのだ。しようとしていないからだ。
エ　しないのだ。できないのではないのだ。

③ 「雨露之所レ潤、非レ無二萌蘖（ほうげつ）之生一※焉。」の傍線部の解釈として最も適当なものを、次の中から選べ。

※焉…置き字

ア　芽ばえがたくさん生じる。
イ　芽ばえは決して生じない。
ウ　芽ばえは生じないことが多い。
エ　芽ばえがほんのわずか生じる。

④ 「莫匪爾（なんぢ）※極。」をすべて平仮名で書き下し文にしたものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

※極…徳

ア　なんぢがきょくなきことあるか。
イ　なんぢがきょくにあらざるなし。
ウ　なんぢがきょくなきにあらず。
エ　なんぢがきょくにあることなかれ。

⑤ 「語らないわけにはいかない」という解釈になるものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　無不可語。　イ　非不可語。　ウ　不可不語。　エ　無非可語。

第7講　PART3　解答

三　①～④〔治まらざる（は）莫し。〕（治まらないものはない。）
〔寒を悪ま**ざるに非ざるなり。**〕（寒さを嫌がらない**のではない**（のである）。）
〔其の謂**無きに非ず。**〕（その理由**がないのではない。**）
〔王土**に非ざる（は）莫し。**〕（王の土地**ではないものはない。**）

問七　観ざる者莫し。

問八　ウ

問九　知らない〔＝記憶しない・覚えておかない〕わけにはいかないのである。

第7講　PART3　確認問題　解答

〔解説〕

① 「無不〜」は「〜ざル（ハ）なシ」と読む二重否定の句形。よって、イが正解。

② 「不為也」は「為さざるなり」と書き下し、「しないのだ」と訳す。「非不〜」は「〜しないのではない」という意味の二重否定の句形。動詞「能」は「あたフ」と読み、「できる」という意味。よって、エが正解。

③ 「非無〜」は「〜がないのではない＝〜がたくさんある」という意味の二重否定の句形。よって、アが正解。

④ 「莫匪〜」は「無非〜」と同じく、「〜ニあらザル（ハ）なシ」と読む二重否定の句形。よって、イが正解。

⑤ 「〜しないわけにはいかない」という意味の二重否定の句形は「不可不〜。」。よって、ウが正解。

〔解答〕

①　イ　②　エ　③　ア　④　イ　⑤　ウ